

平成26年度

子どもハクチョウ調査報告書



新潟市では、平成26年10月に市の鳥「ハクチョウ」を制定しました。

ハクチョウをより身近な鳥として知っていただくために、市内の小学校に協力を依頼し、ハクチョウがどのような所で生活しているのか、学校や家の周りで子どもたちに探してもらいました。

このような場所にあります

豊栄南小学校は、田園地帯が広がる北区の南側に位置します。冬になるとハクチョウやオオヒシクイなどのガンカモ類が集まる福島潟や阿賀野川に近く、また阿賀野市の瓢湖からも車で15分ほどの位置にあります。学校の近くには、新井郷川に合流する駒林川が流れています。

調査内容

- 調査には、全校生が取り組んでくれました。
- 調査した範囲は、豊栄南小学校の学区内です。
- 調査は、調査用紙へ記入し見つけた場所を地図に印をつけました。
- 調査用紙には、見つけた種名、見つけた日と天気、見つけた時の様子などを記入しました。
- 教務室の廊下に大きな地図を貼りだし、目撃した地点にシールを貼ってマップを作りました(下の写真)。



生きものマップは平成25年度の生きもの調査にも使用したもので、平成25年度は丸いシールを、平成26年度はハクチョウの写真が写っている四角い紙を貼りました。



豊栄南小学校の皆さんには、平成25年度にも「子ども生きもの調査」に協力いただきました。ピンク色の丸いシールが、平成25年度に確認されたハクチョウの場所です。

調査結果

■ 60件の報告がありました。

■ 確認した種類：	①ハクチョウ	58件
	②オオヒシクイ	2件

■ 確認した場所(複数回答あり)

①ハクチョウ	： 田んぼ	44件
	上空	8件
	その他	7件
	(家の近くの土手、学校の帰り道、農村公園、など)	
②オオヒシクイ	： 田んぼ	1件
	上空	1件

■ 見つけた時の様子(複数回答あり)

①ハクチョウ	： エサ(ごはん)を食べていた	37件
	飛んでいた	17件
	その他	6件
	(エサを探していた、はねを広げていた、泳いでいた、など)	
②オオヒシクイ	： 飛んでいた	2件

■ 参加者内訳

○1年生：12人	○2年生：14人	○3年生：9人
○4年生：11人	○5年生：5人	○6年生：9人



調査から分かったこと

○半分以上の生徒がエサを食べているところを見つけています。

・学校や家のまわりの田んぼは、福島潟、阿賀野川、阿賀野市瓢湖からエサを採りにでかけたハクチョウやガン類のエサをとる場所として利用されています。

○飛んでいるところを見つけてくれた生徒も多く、地図でもたくさんの確認地点が記録されています。

・学校のまわりでは、たくさんのハクチョウが生活しています。

トピックス1 北区の鳥「オオヒシクイ」

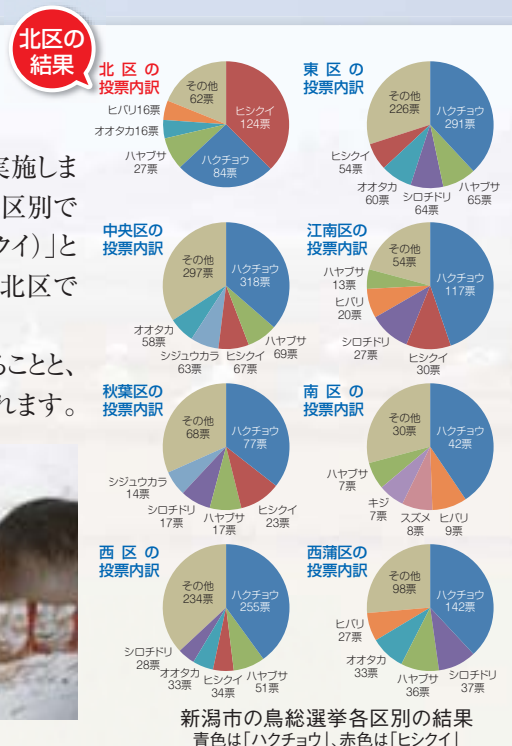
新潟市の鳥を制定するために、平成26年8月～9月に「新潟市の鳥総選挙」を実施しました。約3,600票の投票数のうち、4割近くの方がハクチョウに投票したのですが、各別投票結果を分けた所、北区だけが投票数の一番多かった鳥が「ヒシクイ(オオヒシクイ)」という結果になりました。北区以外の7区は、いずれもハクチョウが一番だったため、北区でのヒシクイの人気は特別なものがありました。

この理由としては、北区にある福島潟がオオヒシクイの日本最大の越冬地であることと、新潟市に合併する前の旧豊栄市の鳥が「オオヒシクイ」だったことなどがあげられます。オオヒシクイが、日本国内で越冬する場所とはとても少なく、福島潟は全国でも貴重な場所として知られています。

新潟市の鳥は「ハクチョウ」となりましたが、この結果を受けて「オオヒシクイ」を北区の鳥にしようという動きがあり、北区では平成27年1月1日に「オオヒシクイ」を区の鳥に制定しました。



北区の鳥「オオヒシクイ」



このような場所にあります

中之口東小学校は西蒲区の南東にあり、学校や家のまわりには田園地帯が広がります。学校のすぐ近くにある農業体験公園や、門田のハザ並木などが豊かな農村の景観を作り上げています。学校の東側には中ノ口川が流れ、西側には上越新幹線が通っています。

調査内容

- 調査には4年生と6校生が取り組んでくれました。
- 調査した範囲は中之口東小学校の学区内およびその周辺です。
- 調査は、調査用紙に記入し見つけた場所の地図を作成しました。
- 調査用紙には見つけた日と、見つけた時の数、見つけた時の様子などを記入しました。



図. ハクチョウを確認した地点 ● : ハクチョウ確認地点

調査結果

- 27件の報告がありました。
- 確認した場所：

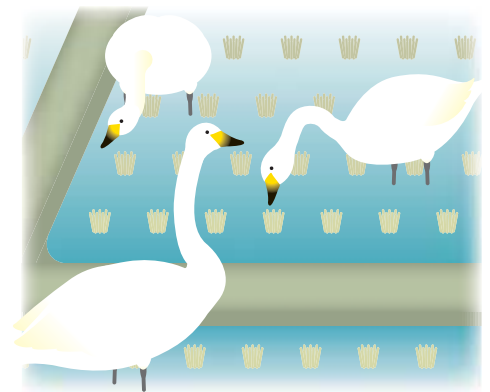
田んぼ	21件
川	3件
その他	3件
- 見つけた日：

12月	3件
(複数回答あり) 1月	15件
2月	10件
その他	1件
- 見つけた時の様子(複数回答あり)

[田んぼでは] エサを食べていた(15件)、飛んでいた・飛びたつところ(5件)、エサを探していた、鳴いていた、普通に立っていた、よく見えなかった

[川 では] 泳いでいた、ういていた、休んでいた
- 見つけた時の数：1羽～20羽くらいの数が確認された

○1～2羽	1件	○3～6羽	14件	○7羽以上	7件	○未記録	5件
-------	----	-------	-----	-------	----	------	----





調査から分かったこと

- 学校の周りの田んぼでもエサを食べているところを見つけました。
 - ・学校周辺の田んぼをエサを採る場所として利用しています。
- 夕方から夜にかけて中ノ口川で休んだりうかんだりしているところを確認しています。
 - ・ハクチョウが中ノ口川をねぐらに利用しています。

これからのこと

- 中ノ口川以外でも学校近くでねぐらをとっていませんか。
 - ・冬の間、水をはっている田んぼを探してみても。田んぼでもねぐらをとっている可能性もあります。
- ハクチョウが集まってくる田んぼは決まっていますか。
 - ・ハクチョウが集まってくる田んぼと、そうでない田んぼの違いを調べてみると面白い結果がでるかもしれません。

トピックス2 新潟県水鳥湖沼ネットワークの活動

越後平野には田園地帯が広がり、ガンカモ類のねぐらとなる河川やさまざまな湖沼といった水辺があります。福島潟、鳥屋野潟、佐潟と阿賀野市瓢湖の4湖沼では、市民有志が中心になり平成12年に新潟県水鳥湖沼ネットワークを結成し、ハクチョウやガン類の生息数調査を同時に行ってきました。

新潟市内には毎年1万羽を超えるハクチョウが越冬し、コハクチョウの越冬数は日本一を誇ります。越後平野は、隣接する湖沼と田んぼが一体となっているひとつの広大な湿地ととらえることができ、水鳥の生息地としてとても重要であることが調査を通じて分かってきました。

平成25年度からは、4湖沼に加えて阿賀野川の大阿賀橋付近でも調査を行い、越後平野のガンカモ類の個体数の変化を調べています。

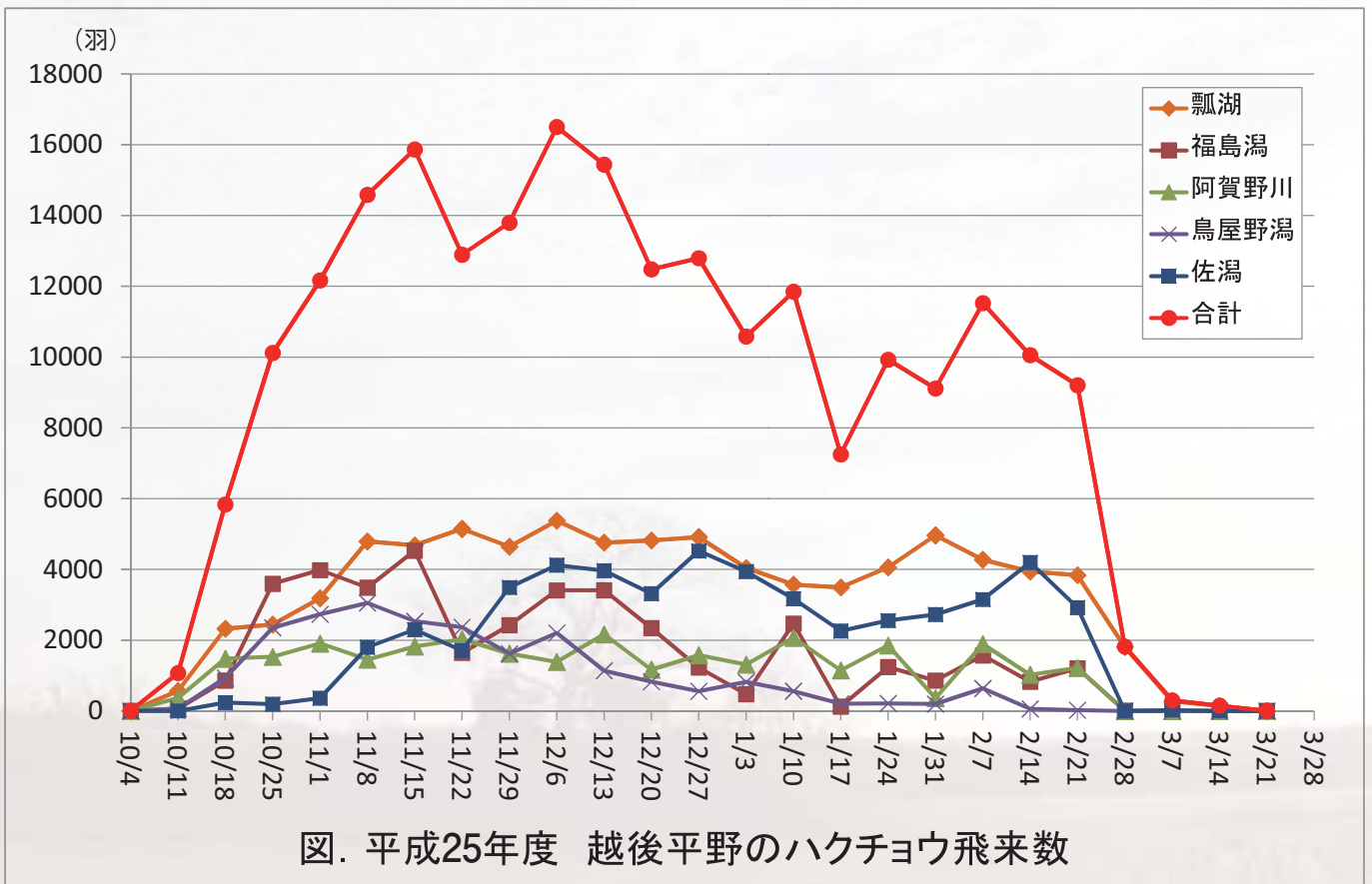


図. 平成25年度 越後平野のハクチョウ飛来数

このような場所にあります

西区の北東に位置する青山小学校は、中央区にほど近く、住宅地と海岸林に隣接した場所にあります。春と秋の野鳥の渡りの時期には、学校近くの海岸林に移動途中の鳥たちが立ち寄り、バードウォッチングを楽しむことができます。

調査内容

- 調査には3年生が取り組んでくれました。
- 調査した範囲は青山小学校の学区内です。
- 学区内でハクチョウが見られるかどうか探してもらいました。

調査結果

- 青山小学校の近くでは、ハクチョウを見つけることができませんでした。
- 学区外でハクチョウを見たという報告が4件ありました。
(福島潟、阿賀野市瓢湖など)



街中ではハクチョウは見られないか？

ハクチョウは、夜になると水辺でねぐらをとるため、ねぐらの場所となるような河川や湖沼がないと生活できません。また食事をするための広い田んぼも必要です。住宅地が広がる街中では生活はできませんが、鳥屋野潟のように住宅地のすぐそばであっても、広い水辺があればたくさんのハクチョウがねぐらをとっています。

また、街中でも移動途中のハクチョウを見かけることがあります。ハクチョウは鳴きながら飛んでいるため、声をたよりに上空を探してみると、市街地でも飛んでいるハクチョウの群れを見つけることができるかもしれません。

新潟市は、全国の中でもハクチョウが身近に見られる都市といえます。



トピックス3

新潟市の鳥「ハクチョウ」について
(調査協力してくれた子どもたちに配りました)

にいがたし とり
新潟市の鳥「ハクチョウ」ってどんな鳥? とり

にいがたし えっとうすう にほんいち
新潟市はコハクチョウの越冬数が日本一

日本には、冬になるとオオハクチョウとコハクチョウの2種類のハクチョウがやってきます。そのうち、皆さんが住んでいる新潟市は、冬にやってくるコハクチョウの数が全国で1番多く、その数は1万羽を超えることもあります。コハクチョウは、潟と田んぼがたくさんある新潟市が大好きです。夜は潟でお休みをして、昼は田んぼでご飯を食べて生活しています。ハクチョウのような大きな生きものが、人間の生活しているすぐ近くで見られることは、全国でもとても珍しいことなのです。



せいかつ
ハクチョウってどんな生活をしているの?

あさ朝

潟や水辺など、ねぐら(ねむったりお休みをする場所)から家族ごとに飛び立って、ご飯を食べる場所に向かいます。

ひる昼

田んぼでご飯を食べたり、おなかいっぱいになるとお昼寝したりして過ごします。

ゆうがた夕方

暗くなる前に安全なねぐらに帰ってきます。時々、暗くなるまでご飯を食べていることも。

よる夜

ねぐらでは、暗くなってもにぎやかな声が聞こえてきます。どんなお話をしているのでしょうか。



なに た
ハクチョウって何を食べているの?

田んぼで稲を刈り取った後に残ったモミや、刈り取った後から生えてきた稲の穂を食べています。また田んぼのまわりには生えているいろいろな植物も食べているようです。

あいだ
いない間はどこにいるの?

春になって暖かくなると北へ帰っていきます。夏にはロシアの草原で子どもを育てています。雪が降ったり地面が凍ったりしてロシアで食べるものがなくなると、南に移動して日本にやってきます。新潟までは、約4,000キロの距離を飛んできます。



新潟市の取り組み

新潟市では、平成24年3月に「にいがた命のつながりプラン-新潟市生物多様性地域計画-」を策定し、本市の豊かな自然環境を保全するために4つのシンボルプロジェクトを掲げました。その考え方の土台となったものが「ハクチョウが飛び交う環境の保全」です。

本市の代表的な自然環境である「里潟」、「里山」、「田園」のうち、「里潟」と「田園」の2つの環境を上手に利用しているハクチョウは、本市の自然環境の豊かな指標種(シンボル)としてあげられます。ハクチョウを守ることが、本市の生物多様性の保全をすすめることでもあり、これから先もハクチョウが飛び交う都市であるよう、市民の皆さまと一緒に保全活動に取り組んでいきます。

ハクチョウのいる風景がなぜ大切なのか、子どもたちにも環境学習などを通じて理解してもらいたいと思います。



ハクチョウ越冬数は全国1位

- 里潟はハクチョウのねぐら
- 田園はハクチョウの餌場
- 里潟や里山、田園を背景にハクチョウが飛び交う風景は、本市の宝



にいがた命のつながりプランより抜粋



生物多様性ワークショップに参加いただいた市民の皆さまからの意見をもとに、新潟市の50年後の理想の姿を図にしたものです。この中にもハクチョウやオオヒシクイが登場しています。